令和８年度　第１回四街市ごみ処理対策委員会　会議次第

日時：令和８年１０月２２日（木）　１４時から
場所：四街道市役所　本館１号棟 ４階 第２委員会室

１．開会

２．事務局紹介

３．会長挨拶

４．議事
（１）令和７年度四街道市一般廃棄物処理基本計画 年次報告書（案）について
（２）その他

５．閉会

四街道市一般廃棄物処理基本計画
令和７年度　年次報告書

（案）

令和８年　月

四街道市環境部廃棄物対策課

はじめに

四街道市では平成 28 年度から令和７年度までの 10 年間を計画期間とした「四街道市一般廃棄物処理基本計画」を策定しました。

計画策定より５年が経過した令和３年度には、社会状況の変化や数値目標の見直し、新たな施策を追加した「四街道市一般廃棄物処理基本計画（中間見直し）」を策定し、計画的な一般廃棄物処理事業の実施及び廃棄物の減量、再資源化に努めてまいりました。

本報告書は、四街道市一般廃棄物処理基本計画（平成 28 年度～令和７年度）の進行管理として、令和７年度に実施した各種施策の取組状況を評価するとともに、計画の最終年度ということから、中間見直し以降の施策取組状況の総合評価を行い、その結果を取りまとめたものとなります。

目　　次

第１章　点検・評価について 1

１　計画の概要 1
２　評価の方法 2

第２章　施策の実施状況について（ごみ処理基本計画） 3

基本方針１　２Ｒを意識した３Ｒの推進 3
１－１　発生抑制・再使用・資源化の推進 3
１－２　３Ｒ推進のためのしくみづくり 7

基本方針２　市民・事業者・行政の協働 13
２－１　市民の取組み 13
２－２　事業者の取組み 17
２－３　行政の取組み 18

基本方針３　適正処理の構築 21
３－１　収集・運搬の検討 21
３－２　中間処理施設の整備 23
３－３　最終処分の検討 25
３－４　適正な事業経営の推進 26

第３章　施策の実施状況について（生活排水処理基本計画） **27**

基本方針１　生活排水処理の推進 27
１－１　公共下水道の普及 27
１－２　高度処理型合併処理浄化槽の普及 28

基本方針２　市民・事業者・行政の協働 29
２－１　市民の取組み 29
２－２　事業者の取組み 31
２－３　行政の取組み 33

基本方針３　適正維持管理の構築 34
３－１　適正な収集・運搬体制の維持 34
３－２　中間処理施設の適正管理 35

第４章　指標の進捗状況について **37**

第５章　まとめ **46**

第１章　点検・評価について

１　計画の概要

「四街道市一般廃棄物処理基本計画」では、一般廃棄物処理のカテゴリを「ごみ処理基本計画」と「生活排水処理基本計画」の２項目に分類し、それぞれ基本理念・基本方針及び具体的な施策を定めています。

◆ごみ処理基本計画

基本理念	
循環型社会形成推進に向けて市民・事業者・行政が協働して取り組み、 環境にやさしいまちの実現へ　～捨てる、でも減らす　ごみ10%削減に挑戦～	
１　２Ｒを意識した３Ｒの推進	１－１　発生抑制・再使用・資源化の推進 １－２　３Ｒ推進のためのしくみづくり
２　市民・事業者・行政の協働	２－１　市民の取組み ２－２　事業者の取組み ２－３　行政の取組み
３　適正処理の構築	３－１　収集・運搬の検討 ３－２　中間処理施設の整備 ３－３　最終処分の検討 ３－４　適正な事業経営の推進

◆生活排水処理基本計画

基本理念	
水環境の保全に向けて市民・事業者・行政が協働して取り組み、 環境にやさしいまちの実現へ　～生活排水処理率100%に挑戦～	
１　生活排水処理の推進	１－１　公共下水道の普及 １－２　高度処理型合併処理浄化槽の普及
２　市民・事業者・行政の協働	２－１　市民の取組み ２－２　事業者の取組み ２－３　行政の取組み
３　適正維持管理の推進	３－１　適正な収集・運搬体制の維持 ３－２　中間処理施設の適正管理

2　評価の方法

各施策の具体的な取組みの実施状況について、下記のとおり評価を行いました。

また、令和７年度が本計画期間の最終年度であることから、中間見直しを実施した令和３年度から令和７年度までの総合評価を下記のとおり行いました。

◆施策の実施状況について

【個別評価】

◎	実施している
○	実施している（改善の余地あり）
△	実施に向けて準備中
□	調査検討中または未実施

【総合評価】

個別評価を下記のとおり点数化し、点数合計の平均値を総合評価としました。

個別評価	点数
◎	4
○	3
△	2
□	1

総合評価	平均点数	評価内容
◎	3.5～4.0	非常に評価できる
○	2.6～3.4	評価できる
△	1.5～2.5	さらなる改善が必要
□	1.0～1.4	実施できていない

※平均点数については、小数点第２位以下四捨五入で計算

◆数値目標について

計画に掲げた数値目標について、下記のとおり評価を行いました。

◎	数値目標に達している
○	数値目標に達していないが、前年度より目標数値に近づいている
△	数値目標に達しておらず、横ばいである
□	数値目標に達しておらず、前年度より目標年度の数値から遠ざかっている

◆総合評価（令和３年度～令和７年度）

各年度の総合評価を点数化し、年度の数で除した数の平均点数で総合評価を行いました。

評価	点数
◎	4
○	3
△	2
□	1

５か年の総合評価	平均点数	評価内容
A	3.5～4.0	十分に実施できた
B	2.6～3.4	実施できた
C	1.5～2.5	満足に実施できなかった
D	1.0～1.4	実施できなかった

※平均点数については、小数点第２位以下四捨五入で計算

第２章　施策の実施状況について（ごみ処理基本計画）

基本方針１　２Ｒを意識した３Ｒの推進

【１－１　発生抑制・再使用・資源化の推進】

(1) ３Ｒに関する意識啓発活動の推進（計画書 P62）

施策内容	①　３Ｒ意識向上のための広報活動の実施	担当課	廃棄物対策課
具体的な取組み	実施状況		
市政だよりや市ＨＰ等において３Ｒの取組みを啓発	●市政だよりに３Ｒの取組みなどを紹介する「クルちゃんごみの話」を掲載 掲載回数：５回（令和６年度：５回）		

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A
評　価	３Ｒの取組みについて、情報を発信することができた。		
課題等	市政だより以外の情報発信についても検討する必要がある。		

(2) 発生抑制・再使用の更なる推進（計画書 P62）**重点項目**

施策内容	①　発生抑制・再使用の推進に繋がる意識啓発の実施	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み		実施状況	個別評価
1)	リサイクルショップ・フリーマーケット活用の奨め（不要品の出品、再使用目的品の購買による再使用の推進）	●市 HP 等でフリマアプリの活用についての啓発を実施 ●リサイクルショップの利用促進に向けて、新たに民間企業との連携を検討	◎
2)	リユース品交換制度活用の奨め（不要品の提供、利用による再使用の推進）	●市 HP でリユース品情報コーナーについて掲載 ●市 HP、廃棄物対策課窓口及び市役所１階リサイクルコーナーにリユース品情報を掲示 令和７年度実績（成立件数/登録件数） ・ゆ　ず　り　ま　す：４件/29 件（令和６年度：９件/29 件） ・ゆずってください：０件/４件（令和６年度：３件/17 件）	◎
3)	食品ロス削減に係る意識啓発の実施	●市産業まつりで食品ロス削減の啓発を実施 ・セブン-イレブン・ジャパンと連携し「てまえどり」POP の作成及び市内セブン-イレブン店舗等への掲示 ・市内こども食堂と連携し、フードドライブの寄付食材を使用した食品の販売 （令和６年度：市内大学と連携し、規格外野菜等を活用した「食材	◎

	使いきり料理」の紹介及び販売） ●市政だより及び市 HP に食べきり協力店の募集記事を掲載 登録店舗数：22 店舗（令和６年度：22 店舗） ●市 HP で「食材使いきりレシピ」の紹介記事の掲載 レシピ紹介数：21 件（令和６年度：21 件）	
4）生ごみリサイクルの意識啓発の実施	●生ごみ処理容器・発酵資材を市民に無料配付 配布人数：35 人（うち、講習会参加者 21 人） （令和６年度：38 人（うち、講習会参加者 23 人）） ●生ごみ減量を目的とした「ごみを減らそう講習会」を開催 ・小学生向け：参加人数 10 組 20 名 ・初心者向け：参加人数 19 名 ・経験者向け：参加人数 14 名 （令和６年度：２回開催（参加人数：延べ 37 名）） ●生ごみ堆肥化方法を公式 YouTube で紹介	◎

評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	○	◎	◎	◎

平均点	3.6	総合評価	A

評　価	ごみの減量について、効果的に取り組むことができた。
課題等	今後も継続して取り組んでいくが、実施内容等については市民ニーズや社会情勢等を考慮しながら都度検討していく必要がある。

施策内容	② 発生抑制・再使用の推進のための制度の継続、充実、導入	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況	個別評価
1) 家庭系ごみ処理手数料制度の導入	●令和２年９月に家庭系ごみ処理手数料制度を導入 家庭系ごみ排出量：16,653ｔ（令和６年度：16,911ｔ） 前年度比：258ｔ（約1.5%減） ●家庭系ごみ処理手数料について、市政だより及び市HPで周知を実施	◎
2) リユース品交換制度の継続、更なる充実	【再掲(2)-①】 ●市HPでリユース品情報コーナーについて掲載 ●市HP、廃棄物対策課窓口及び市役所１階リサイクルコーナーにリユース品情報を掲示 令和７年度実績（成立件数/登録件数） ・ゆ ず り ま す：４件/29件（令和６年度：９件/29件） ・ゆずってください：０件/４件（令和６年度：３件/17件）	◎
3) 良質な粗大ごみの補修・販売制度の導入	●他自治体で開設しているリサイクルプラザを参考にするなど、次期ごみ処理施設と一体で検討	□
4) フードドライブの実施	●市及び市内店舗でフードドライブを実施し、回収した食品を社会福祉協議会に寄付 ≪寄付した食品数≫ ・イトーヨーカドー四街道店：7,288点 ・ヨークマートもねの里店（令和７年10月から）：248点 （令和６年度：イトーヨーカドー四街道店：8,617点）	◎

評価点	3.3	総合評価	○

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	○	○	○	○

平均点	3	総合評価	B

評　価	発生抑制、再使用の推進に係る制度について、おおむね順調に取り組むことができた。
課題等	リユース品情報コーナーやフードドライブ等発生抑制・再使用に係る施策について、概ね取り組むことができたが、さらなる周知や内容の更新等を行っていく必要がある。また、粗大ごみについては計画期間内に取り組むことができなかったことから、他の取り組み方について検討していく必要がある。

(3)資源化の推進（計画書 P62）

施策内容	①　資源化の推進に繋がる意識啓発の実施	担当課	廃棄物対策課 クリーンセンター

具体的な取組み	実施状況	個別評価
1)　集団回収への協力要請	●市 HP 及び市政だよりに実施団体募集記事を掲載 ・集団回収実施団体数：52 団体（令和６年度：54 団体） ・回収量：577ｔ（令和６年度：626ｔ） ・補助金額 実施団体：2,899,780 円（令和６年度：3,153,265 円） 資源組合：2,812,645 円（令和６年度：3,065,075 円）	◎
2)　雑がみ分別の広報等	●市 HP 及び市政だよりに啓発記事を掲載 雑がみ排出量：351.38ｔ（令和６年度：378.60t） 前年度比：△27.22ｔ（7.2%減）	◎
3)　プラスチック・ビニール類の更なる減量化、再資源化への取組み	●使い捨てコンタクトレンズの空ケースの回収を実施 ・回収場所：市役所本庁舎、わろうべの里 ・回収量：75.88 kg（令和６年度：73.39 kg） ●ペットボトルキャップの回収を実施 ・回収場所：市役所本庁舎 ・回収量：1,660 kg（令和６年度：1,298 kg） ※回収実績は市役所と社会福祉協議会の合計 ●民間企業と連携し、使用済みペンの回収を開始 ・回収場所：市役所本庁舎、図書館、わろうべの里 ●令和６年10月から不燃ごみとして回収していた製品プラスチックの一部を「プラスチック・ビニール類」として回収	◎
4)　小型家電の拠点回収	●小型家電の拠点回収を市内 10 か所で実施 ≪回収場所≫ 市役所本庁舎、市役所第２庁舎、文化センター、図書館、わろうべの里、公民館（四街道、千代田、旭）、鹿放ケ丘ふれあいセンター、鷹の台郵便局 ・回収量：1.6ｔ（令和 6 年度：1.14t）	◎

評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	資源化について、積極的に行うことができた。
課題等	資源化推進のため、市民に向けてさらなる周知を行う必要がある。あわせて、資源物の収集量の拡大に係る施策について検討していく必要がある。

【１－２　３Ｒ推進のためのしくみづくり】

(4)発生抑制・再使用のための側面支援（計画書 P63）**重点項目**

施策内容	市民・事業者の発生抑制のための自発的活動の側面支援 ①　（市民団体の生ごみ堆肥化事業、情報提供支援、生ごみ処理容器・発酵資材の提供）	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況	個別評価
1)　自発的活動を促進するための情報提供	【再掲(2)-①】 ●生ごみの減量を目的とした「ごみを減らそう講習会」を開催 ・小学生向け：参加人数 10 組 20 名 ・初心者向け：参加人数 19 名 ・経験者向け：参加人数 14 名 （令和６年度：２回開催（参加人数：37 名）） ●生ごみ堆肥化方法を公式 YouTube で紹介	◎
2)　生ごみ処理容器・発酵資材を配布	●生ごみ処理容器・発酵資材を市民に無料配付 配付人数：35 人（うち、講習会参加者 21 人） （令和６年度：38 人（うち、講習会参加者 23 人）	◎

評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A
評　価	講習会の開催及び堆肥化資材の配付を行うことで、家庭系ごみの発生を抑制することができた。		
課題等	講習会の内容について、市民のニーズを把握しながら検討していく必要がある。		

施策内容	②　エコショップ制度の側面支援	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
店頭回収や商品の簡易包装等を行う店舗を「エコショップ」として認定、紹介	●市 HP で認定店の紹介及び募集記事を紹介 認定店舗数：５店舗（令和６年度：５店舗）

個別評価	○	評価点	3	総合評価	○

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	○	○	○	○

平均点	3	総合評価	B
評　価	認定店舗の周知について実施することができたが、店舗数の推移は横ばいとなっている。		
課題等	制度の周知は行っているが認定店舗数に変化が無いため、制度のあり方について検討する必要がある。		

施策内容	③　事業系ごみの分別の徹底及び資源ごみの自己処理の要請	担当課	クリーンセンター

具体的な取組み	実施状況
事業系ごみの展開検査を実施し、搬入物について届出内容と相違がないか確認し、不適正な搬入に対して分別指導を実施	●許可業者（22 事業者）のうち、無作為に抽出した事業者に対して展開検査及び分別指導を実施 展開検査/指導件数：13 件/13 件 （令和６年度：13 件/13 件）

個別評価	○	評価点	3	総合評価	○

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	○	○	○	○

平均点	3	総合評価	B

評　価	定期的な展開検査を実施することで、事業者に対して分別指導を行うことができた。
課題等	展開検査と指導の件数が毎年ほぼ同数なため、事業者に対してのさらなる指導が必要である。

施策内容	④　家庭系ごみ処理手数料制度の導入	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
家庭系ごみの排出を抑えるため、処理手数料制度を導入	【再掲(2)-②】 ●令和２年９月に家庭系ごみ処理手数料制度を導入 家庭系ごみ排出量：16,653ｔ（令和 6 年度：16,911ｔ） 前年度比：258ｔ（約 1.5%減） ●家庭系ごみ処理手数料について、市政だより及び市 HP で周知を実施

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	家庭系ごみ処理手数料制度を導入したことにより、市民のごみ減量についての意識が向上し、毎年家庭系ごみの量は減少している。
課題等	引き続き制度を適切に運用していくとともに、手数料については適宜適正になるよう見直しを行っていく必要がある。

施策内容	⑤　拡大生産者責任の明確化	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
事業者の責任及び負担の明確化等について、拡大生産者責任の強化を国に要望	●本市が加盟している「全国都市清掃会議」を通じ、国に対して要望を実施

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	○	○	◎	◎

平均点	3.4	総合評価	B

評　価	適正処理困難物が適正に処理できるよう要望を行うことができた。
課題等	今後も自治体単位で対応が困難な案件に対しては、要望を行っていく必要がある。

施策内容	⑥　リユース品の交換制度の充実	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
市 HP を通じた広報	【再掲(2)-②】 ●市 HP でリユース品情報コーナーについて掲載 ●市 HP、廃棄物対策課窓口及び市役所１階リサイクルコーナーにリユース品情報を掲示 令和７年度実績（成立件数/登録件数） ・ゆ　ず　り　ま　す：４件/29 件（令和６年度：９件/29 件） ・ゆずってください：０件/４件（令和６年度：３件/17 件）

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	○	◎	◎	◎

平均点	3.8	総合評価	B

評　価	市民に対してリユース品の情報を発信することができた。
課題等	リユースを促進していくにあたり、新たな取組みや広報の方法を見直していく必要がある。

施策内容	⑦　食べきり協力店制度の側面支援			担当課	廃棄物対策課
具体的な取組み	実施状況				
市内飲食店を対象に「食べきり協力店」の募集・登録を行い「食べ残しゼロ」を啓発	●市 HP 及び市政だよりに食べきり協力店の募集記事を掲載 登録店舗数：22 店舗（令和６年度：22 店舗）				
個別評価	○	評価点	3	総合評価	○

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	○	○	○	○
平均点	3.2	総合評価	B	
評　価	制度及び実施店舗の周知を行うことができた。			
課題等	制度や店舗の周知だけでなく、効果的な取組みについて検討する必要がある。			

施策内容	⑧　雑がみ分別の支援	担当課	クリーンセンター 廃棄物対策課	
具体的な取組み	実施状況			個別評価
1)　雑がみを分別し排出することを周知	【再掲(3)-①】 ●市 HP 及び市政だよりに啓発記事を掲載 雑がみ排出量：351.38ｔ（令和６年度：378.60t） 前年度比：△27.22ｔ（7.2%減）			◎
2)　雑がみの回収方法の検討	●令和５年度より雑がみ回収用の網袋をごみ集積所に設置し回収を実施			◎
評価点	4	総合評価	◎	

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	◎	◎	◎	◎
平均点	3.8	総合評価	A	
評　価	雑がみを資源物として個別に収集を行うことにより、市民のリサイクル意識向上に寄与することができた。			
課題等	まだ可燃ごみ中に資源化可能な雑がみが混在してしまっていることから、さらなる市民の行動変容に繋がるよう情報発信をしていく必要がある。			

(5)資源化のための側面支援（計画書 P63）

施策内容	①　広報手法や広報媒体の充実	担当課	クリーンセンター 廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況	個別評価
1)　ごみ分別促進アプリ「さんあ～る」の配信	●スマートフォンなどで分別方法等を確認できるアプリ 「さんあ～る」を配信 登録件数：8,192 件（令和６年度：7,005 件）	◎
2)　「さんあ～る」WEB 版の配信	●市 HP で「さんあ～る」の WEB 版を配信	◎
3)　外国語版「さんあ～る」の配信	●「さんあ～る」外国語版を配信 対応言語：英語、中国語、韓国語、ペルシャ語 登録件数：266 件（令和６年度：215 件）	◎

評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A
評　価	「さんあ～る」の登録件数が毎年増加していることから、一定の周知はできている。		
課題等	「さんあ～る」の登録件数は増加傾向ではあるが、世帯数比でみるとまだ浸透しきっていないため、さらなる周知が必要である。		

施策内容	②　使用済みインクカートリッジの回収	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
市役所に使用済みインクカートリッジ回収箱を設置	市役所 1 階リサイクルコーナーで使用済みインクカートリッジを回収 回収量：3,860 個（116 kg） （令和６年度：2,450 個（74 kg））

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A
評　価	使用済みインクカートリッジの常時回収を実施することにより、資源化を促進することができた。		
課題等	今後も継続して拠点回収を実施し、資源化を促進していく。		

施策内容	③　廃乾電池の拠点回収の試行実施	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
市役所で廃乾電池の回収を実施	●市役所１階リサイクルコーナーで廃乾電池を回収

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	集積所での回収に加えて拠点回収を行うことで、市民の利便性向上に寄与することができた。
課題等	今後も市民の利便性向上及び回収量拡大のため、継続して回収を行っていく。

基本方針２　市民・事業者・行政の協働

【２－１　市民の取組み】

(6)循環型社会を構築するためのライフスタイルの転換

施策内容	①　もったいない意識を常に心がける	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況	個別評価
1)　３きり（使いきり、食べきり、水きり）についての広報	【再掲(2)-①】 ●市産業まつりで食品ロス削減の啓発を実施 ・セブン-イレブン・ジャパンと連携し「てまえどり」POP の作成及び市内セブン-イレブン店舗等への掲示 ・市産業まつりで市内こども食堂と連携し、フードドライブの寄付食材を使用しての食品の販売 （令和６年度：市内大学と連携し、規格外野菜等を活用した「食材使いきり料理」の紹介及び販売） ●市 HP 及び市政だよりに食べきり協力店の募集記事を掲載 登録店舗数：22 店舗（令和６年度：22 店舗） ●市 HP で「食材使いきりレシピ」の紹介記事の掲載 レシピ紹介数：21 件（令和６年度：21 件）	◎
2)　フードドライブの実施	【再掲(2)-②】 ●市及び市内店舗でフードドライブを実施し、回収した食品を社会福祉協議会に寄付 ≪寄付した食品数≫ ・イトーヨーカドー四街道店：7,288 点 ・ヨークマートもねの里店（令和７年 10 月から）：248 点 （令和６年度：イトーヨーカドー四街道店：8,617 点）	◎

評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A
評　価	効果的に施策を実施することで、食品ロスの削減に寄与することができた。		
課題等	食品ロスを減らすため、引き続き様々な施策を実施していく必要がある。		

施策内容	②　ごみの減量化、資源化等の環境問題に関心をもつ	担当課	廃棄物対策課 クリーンセンター

具体的な取組み	実施状況	個別評価
1）　生涯学習まちづくり出前講座を活用したごみ減量化・資源化等に関する講座、見学会の実施	●生涯学習まちづくり出前講座の設定 「ごみの減量とリサイクル講座」実施回数：1 回 （令和６年度：希望者なしのため実績なし） ●クリーンセンター見学会実施回数：９回 （参加人数：小学校９校　計 713 名） （令和６年度：小学校 10 校　計 762 名）	◎
2）　小中学生を対象とした「ごみの減量と分別講座」の実施	●「ごみの減量と分別講座」の開催 授業実施回数：10 回 ≪参加人数≫ 大日小学校：４学年　３クラス　計 79 名 四街道小学校：４学年　４クラス　計 119 名 中央小学校：４学年　３クラス　計 89 名 令和６年度：実施回数：４回 ≪参加人数≫ 旭小学校：４学年１クラス　計 23 名 大日小学校：４学年３クラス　計 84 名	◎

評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	環境学習を実施することで、市民の環境に対する関心を高めることができた。
課題等	若年層から環境に対する意識を持ってもらうため、継続して環境学習を実施する必要がある。

施策内容	③　市民団体の生ごみ堆肥化事業への参加	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
生ごみ堆肥化に関心を持ってもらうため、講習会の開催及び生ごみ処理容器・発酵資材を配付	【再掲(2)-①】 ●生ごみ処理容器・発酵資材を市民に無料配付 配付人数：35 人（うち、講習会参加者 21 人） （令和６年度：38 人（うち、講習会参加者 23 人）） ●生ごみ減量を目的とした「ごみを減らそう講習会」を開催 ・小学生向け：参加人数 10 組 20 名 ・初心者向け：参加人数 19 名 ・経験者向け：参加人数 14 名 （令和６年度：２回開催（参加人数：延べ 37 名）） ●生ごみ堆肥化方法を公式 YouTube で紹介

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	◎	◎	◎	◎

平均点	3.8	総合評価	A
評　価	生ごみの堆肥化を進めることで、市民のごみ減量意識及び環境意識を向上させることができた。		
課題等	講習会の参加者に高齢者が多い傾向であることから、若い世代の参加者を増やす必要がある。		

(7)分別排出への協力（計画書 P64）

施策内容	①　分別を徹底し、異物混入を防止	担当課	クリーンセンター

具体的な取組み	実施状況
分別が不十分な集積所の排出ごみに対し、違反シールを貼付し、分別徹底を促す	●不適正に排出されたごみ袋に、適正な排出を促すため違反シールを貼付 シール貼付枚数：35,500 枚（令和６年度：約 31,000 枚）

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	○	○	◎	◎

平均点	3.4	総合評価	B
評　価	不適切に排出されたごみに対して指導することで、市民の分別意識を向上させることができた。		
課題等	今後も分別に対する意識を持ってもらうために効果的な対策を実施する必要がある。		

施策内容	②　雑がみを資源化するための分別の徹底	担当課	廃棄物対策課 クリーンセンター

具体的な取組み	実施状況	個別評価
1)　雑がみを分別排出することを周知	【再掲(3)-①】 ●市 HP 及び市政だよりに啓発記事を掲載 雑がみ排出量：351.38ｔ（令和 6 年度 378.60t） 前年度比：△27.22ｔ（7.2%減）	◎
2)　雑がみの回収方法の検討	【再掲(4)-⑧】 ●令和５年度より雑がみ回収用網袋をごみ集積所に設置し回収を実施	◎

評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	◎	◎	◎	◎

平均点	3.8	総合評価	A
評　価	雑がみの排出方法について周知を続けた結果、徐々に市民に浸透してきている。		
課題等	可燃ごみ組成分析の結果、まだ可燃ごみ中に資源化可能な雑がみが混入しているため、さらなる分別徹底を促進していく必要がある。		

(8)不法投棄防止への協力（計画書 P64）

施策内容	①　不法投棄防止の視点での監視、通報の協力	担当課	廃棄物対策課 クリーンセンター 環境政策課

具体的な取組み	実施状況	個別評価
1)　不法投棄禁止看板の設置	●市民からの要望に応じ、不法投棄禁止看板を設置 ・不法投棄禁止看板設置本数：34 本（令和６年度：51 本） ・不法投棄禁止ラミネート配付枚数：34 枚（令和６年度：102 枚）	◎
2)　不法投棄のパトロール	●不法投棄等の監視を目的とする環境パトロールを実施 実施頻度：週５日程度（令和６年度：週５日程度）	◎
3)　市民等や他部署から通報を受けての現地確認	●不法投棄の通報を受けての現地確認の実施及び投棄物の撤去 対応件数：98 件（令和 6 年度：57 件）	◎

評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	○	◎	◎	◎

平均点	3.6	総合評価	A
評　価	不法投棄防止について、適切に対応することができた。		
課題等	今後も不法投棄の防止等について、関係機関と協力しながら適切に対応していく。		

【２－２　事業者の取組み】

(9)自己処理の原則に基づくごみ排出量減量化への協力（計画書 P64）

施策内容	①　ごみの減量化、資源化計画の策定及び実施	担当課	クリーンセンター

具体的な取組み	実施状況
多量排出者に対し減量化、資源化計画の策定及び提出の指示	●四街道市廃棄物の処理及び清掃に関する条例第５条に規定する多量排出者に対しての指導 令和７年度：該当なし（令和６年度：該当なし）

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	多量排出者に対しての指導は、該当がないため行っていない。
課題等	該当があった場合、適切に対応できるよう準備をしておく必要がある。

(10)拡大生産者責任による製品の製造・販売への配慮（計画書 P64）

施策内容	①　不要となった製品の環境負荷に及ぼす影響が最小となる再使用可能部品の組み込みや処理処分の容易性を配慮して製品の製造･販売	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
事業者の責任及び負担の明確化等について、拡大生産者責任の強化を国に要望	【再掲(4)-⑤】 ●本市が加盟している「全国都市清掃会議」を通じ、国に対して要望

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	○	○	◎	◎

平均点	3.4	総合評価	B

評　価	関係機関を通して、拡大生産者責任について国へ要望を行った。
課題等	今後も国に対して適宜要望を行っていく。

(11)環境保全・資源保全に関する取組みの公表

施策内容	① 環境保全・資源保全に関する取組みの公表	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況	個別評価
1) 店頭回収や商品の簡易包装等を行う店舗を「エコショップ」として認定、紹介	【再掲(4)-②】 ●市 HP 及び市政だよりで認定店の紹介及び募集記事を紹介 認定店舗数：５店舗（令和６年度：５店舗）	○
2) 市内飲食店を対象に「食べきり協力店」の募集･登録を行い、「食品ロスゼロ」を啓発	【再掲(2)-①】 ●市 HP 及び市政だよりに食べきり協力店の募集記事を掲載 登録店舗数：22 店舗（令和６年度：22 店舗）	○

評価点	3	総合評価	○

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	○	○	○	○

平均点	3.2	総合評価	B
評　価	市 HP、市政だより等で制度や実施店舗の広報を行うことができた。		
課題等	広報だけでなく具体的な取組みについて検討していく必要がある。		

【２－３　行政の取組み】

(12)本計画の基本理念及び基本方針の周知（計画書 P64）

施策内容	① ごみ処理の基本理念及び基本方針を市民、事業者に周知と行政の積極的行動	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
基本理念及び基本方針を市 HP で紹介	●市 HP に四街道市一般廃棄物処理基本計画を公表 ●市 HP に四街道市一般廃棄物処理基本計画 令和６年度年次報告書を公表

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A
評　価	市民に向けて基本理念及び基本方針を発信することができた。		
課題等	今後も市民に向けて市の考え方を発信していく必要がある。		

施策内容	②　拡大生産者責任の働きかけを行う		担当課	廃棄物対策課
具体的な取組み	実施状況			
事業者の責任及び負担の明確化等について拡大生産者責任の強化を国に要望	【再掲(4)-⑤】 ●本市が加盟している「全国都市清掃会議」を通じ、国に対して要望			
個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	○	○	◎	◎
平均点	3.4	総合評価	B	
評　価	関係機関を通して、拡大生産者責任について国へ要望を行った。			
課題等	今後も国に対して適宜要望を行っていく必要がある。			

施策内容	③　出前講座等による市民・事業者への積極的な啓発活動を継続	担当課	廃棄物対策課 クリーンセンター
具体的な取組み	実施状況		個別評価
1)　生涯学習まちづくり出前講座を活用したごみ減量化・資源化等に関する講座、見学会の実施	【再掲(6)-②】 ●生涯学習まちづくり出前講座の設定 「ごみの減量とリサイクル講座」実施回数：１回 （令和６年度：希望者なしのため実績なし） ●クリーンセンター見学会実施回数：９回 （参加人数：小学校９校　計 713 名） （令和６年度：小学校 10 校　計 762 名）		◎
2)　小中学生を対象とした「ごみの減量と分別講座」の実施	【再掲(6)-②】 ●小中学生向け「ごみの減量と分別講座」の開催 授業実施回数：10 回 ≪参加人数≫ 大日小学校：４学生　３クラス　計 79 名 四街道小学校：４学年　４クラス　計 119 名 中央小学校：４学年　３クラス　計 89 名 令和６年度：実施回数：４回 ≪参加人数≫ 旭小学校：４学年１クラス　計 23 名 大日小学校：４学年３クラス　計 84 名		◎
評価点	4	総合評価	◎	

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎
平均点	4	総合評価	A	
評　価	環境学習を実施することで、市民の環境に対する関心を高めることができた。			
課題等	若年層から環境に対する意識を持ってもらうため、継続して環境学習を実施する必要がある。			

(13)計画達成のための具体的施策等の実践（計画書 P64）

施策内容	①　ごみ削減アイディア、実践事例を市民・事業者から広く募集し、応募者との意見交換等の交流をとおして情報の共有を行い、実践事例等を市のホームページや産業まつり時に紹介	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況	個別評価
1)　ごみ削減の実践動画を市 HP 等に公開	【再掲(2)-①】 ●生ごみの堆肥化方法を市公式 YouTube で紹介	◎
2)　食品ロス削減のための「食材使いきりレシピ」の募集及び応募作品の公開	【再掲(2)-①】 ●市 HP で「食材使いきりレシピ」の紹介記事の掲載 レシピ紹介数：21 件（令和６年度：21 件）	◎

評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎
平均点	4	総合評価	A	
評　価	ごみの減量方法について、情報を発信することができた。			
課題等	引き続きごみ減量に係る有益な情報の発信を行っていく。			

基本方針３　適正処理の構築

【３－１　収集・運搬の検討】

(14)状況の変化に対応した収集・運搬の検討（計画書 P65）

施策内容	①　家庭系ごみ処理手数料制度の導入時の戸別収集の検討	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
戸別収集を実施している自治体を参考に、課題や問題点等について調査研究を行う。	●他市の事例を参考に導入する際の問題点等について調査・検討を実施

個別評価	□	評価点	1	総合評価	□

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
□	□	□	□	□

平均点	1	総合評価	D
評　価	検討を実施したが、全世帯で戸別収集を実施することは困難と判断した。		
課題等	家庭系ごみ処理手数料制度を適切に運用し、市民に還元できるような施策を検討する必要がある。		

施策内容	②　粗大ごみ処理券の導入の検討	担当課	クリーンセンター

具体的な取組み	実施状況
粗大ごみ処理手数料を「納付書方式」から「シール券方式」へ変更	●令和５年度より粗大ごみ処理手数料の徴収方法を、事前に処理券を購入する「シール券方式」に変更

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A
評　価	粗大ごみ処理手数料をシール券方式に変更したことにより市民の利便性向上につながった。		
課題等	今後も粗大ごみ処理手数料の徴収をシール券方式で行っていく。		

施策内容	③　プラスチック・ビニール類の一括回収	担当課	クリーンセンター

具体的な取組み	実施状況
プラスチック・ビニール類の一括回収の実施検討	【再掲(3)-①】 ●令和６年 10 月から不燃ごみとして回収していた製品プラスチックの一部を「プラスチック・ビニール類」として回収

個別評価	◎	評価点	◎	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
□	○	◎	◎	◎

平均点	3.2	総合評価	B

評　価	プラスチック・ビニール類の回収を始めたことで、資源化量の拡大及びごみ出しに係る市民の利便性向上に寄与することができた。
課題等	今後も収集を継続するとともに、さらなる分別の徹底を行う必要がある。

(15)環境と安全に配慮した収集・運搬の実施（計画書 P65）

施策内容	①　低公害型車両の導入誘導	担当課	クリーンセンター

具体的な取組み	実施状況
収集業者に対して低公害型車両導入の要請	●収集業者に対して低公害型車両の導入を要請 マイルドハイブリッド車両：４台/全 32 台 （令和６年度：４台/全 28 台） ※令和６年度より車両台数の数え方を見直したため、総台数が変わっています。なお、台数が増えた訳ではありません。

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	○	○	◎	◎

平均点	3.6	総合評価	A

評　価	収集業者に対して環境に配慮するよう要請することで、市全体で環境問題に取り組むことができた。
課題等	引き続き車両更新時に低公害車を導入するよう要請していく。

【３－２　中間処理施設の整備】

(16)新ごみ処理施設の整備の検討（計画書 P65）

施策内容	①　循環型社会推進のためのごみ処理システムの決定	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
ごみ処理の広域化を含めた次期ごみ処理施設の整備手法の検討	●吉岡地区の次期ごみ処理施設等用地でのごみ処理施設整備は断念したが、ごみ処理の広域化が優位であることは変わりないことから、広域化を前提に検討を進め、周辺自治体と情報交換を行った。 （令和６年度） ごみ処理の広域化を含めた次期ごみ処理施設の整備手法については、概算事業費やそれに伴う財政負担、実現可能性等を総合評価した結果、八街市とのごみ処理の広域化とすることとした。

個別評価	□	評価点	1	総合評価	□

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
□	□	□	△	□

平均点	1.2	総合評価	D

評　価	次期ごみ処理施設におけるごみ処理システムの決定に至らなかった。
課題等	現クリーンセンターの施設稼働から 30 年以上経過していることから、早期の整備が必要である。

施策内容	②　次期ごみ処理施設の基本計画策定	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
ごみ処理の広域化を含めた次期ごみ処理施設の整備手法の検討	【再掲(16)-①】 ●吉岡地区の次期ごみ処理施設等用地でのごみ処理施設整備は断念したが、ごみ処理の広域化が優位であることは変わりないことから、広域化を前提に検討を進め、周辺自治体と情報交換を行った。 （令和６年度） ごみ処理の広域化を含めた次期ごみ処理施設の整備手法については、概算事業費やそれに伴う財政負担、実現可能性等を総合評価した結果、八街市とのごみ処理の広域化とすることとした。

個別評価	□	評価点	1	総合評価	□

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
□	□	□	△	□

平均点	1.2	総合評価	D

評　価	次期ごみ処理施設の基本計画策定に至らなかった。
課題等	現クリーンセンターの施設稼働から 30 年以上経過していることから早期の整備が必要である。

(17)エネルギー回収型廃棄物処理施設の整備（計画書 P65）

施策内容	①　エネルギー回収型廃棄物処理施設（次期ごみ処理施設）の整備	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
ごみ処理の広域化を含めた次期ごみ処理施設の整備手法の検討	【再掲(16)-①】 ●吉岡地区の次期ごみ処理施設等用地でのごみ処理施設整備は断念したが、ごみ処理の広域化が優位であることは変わりないことから、広域化を前提に検討を進め、周辺自治体と情報交換を行った。 （令和６年度） ごみ処理の広域化を含めた次期ごみ処理施設の整備手法については、概算事業費やそれに伴う財政負担、実現可能性等を総合評価した結果、八街市とのごみ処理の広域化とすることとした。

個別評価	□	評価点	1	総合評価	□

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
□	□	□	△	□

平均点	1.2	総合評価	D
評　価	次期ごみ処理施設におけるエネルギー回収型廃棄物処理施設の整備に至らなかった。		
課題等	現クリーンセンターの施設稼働から 30 年以上経過していることから、早急な整備が必要である。		

施策内容	②　生活環境影響調査、発注仕様書作成等エネルギー回収施設整備に係る事業の実施	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
ごみ処理の広域化を含めた次期ごみ処理施設の整備手法の検討	【再掲(16)-①】 ●吉岡地区の次期ごみ処理施設等用地でのごみ処理施設整備は断念したが、ごみ処理の広域化が優位であることは変わりないことから、広域化を前提に検討を進め、周辺自治体と情報交換を行った。 （令和６年度） ごみ処理の広域化を含めた次期ごみ処理施設の整備手法については、概算事業費やそれに伴う財政負担、実現可能性等を総合評価した結果、八街市とのごみ処理の広域化とすることとした。

個別評価	□	評価点	1	総合評価	□

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	□	□	△	□

平均点	1.6	総合評価	C
評　価	次期ごみ処理施設におけるエネルギー回収施設に係る事業の実施に至らなかった。		
課題等	現クリーンセンターが施設稼働から 30 年以上経過していることから、早急な整備が必要である。		

(18)マテリアルリサイクル推進施設の整備（計画書 P65）

施策内容	① マテリアルリサイクル推進施設（破砕、圧縮、選別、梱包施設、再生、保管、展示等リサイクル推進に資する施設）の整備	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
ごみ処理の広域化を含めた次期ごみ処理施設の整備手法の検討	【再掲(16)-①】 ●吉岡地区の次期ごみ処理施設等用地でのごみ処理施設整備は断念したが、ごみ処理の広域化が優位であることは変わりないことから、広域化を前提に検討を進め、周辺自治体と情報交換を行った。 （令和６年度） ごみ処理の広域化を含めた次期ごみ処理施設の整備手法については、概算事業費やそれに伴う財政負担、実現可能性等を総合評価した結果、八街市とのごみ処理の広域化とすることとした。

個別評価	□	評価点	1	総合評価	□

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
□	□	□	△	□

平均点	1.2	総合評価	D
評　価	次期ごみ処理施設におけるマテリアルリサイクル推進施設の整備に至らなかった。		
課題等	現クリーンセンターが施設稼働から 30 年以上経過していることから、早急な整備が必要である。		

【３－３　最終処分の検討】

(19) 最終処分量の減量化の検討（計画書 P65）

施策内容	①　焼却残渣の取扱いについて検討	担当課	クリーンセンター

具体的な取組み	実施状況
焼却灰の有効利用	●焼却残渣の一部を資源化 資源化量：99.52ｔ（令和６年度：99.04ｔ）

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
□	◎	◎	◎	◎

平均点	3.4	総合評価	B
評　価	計画期間中に段階的に準備を行い、実施することができた。		
課題等	効果的な資源化方法であるが、費用面で負担があるため注意が必要である。		

(20)最終処分方法の検討（計画書 P65）

施策内容	①　災害廃棄物の最終処分対応について検討	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
四街道市災害廃棄物処理計画に基づく対応方法の検討	●協定締結業者と協定内容の確認を実施 （令和６年度：協定締結業者と協定内容の確認を実施） ●新たな災害廃棄物仮置場候補地及び、災害時の地域における臨時集積所の設定についての検討を開始

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
□	○	○	◎	◎

平均点	3	総合評価	B

評　価	災害廃棄物の処理について、積極的に取り組むことができた。
課題等	協定の細かい運用方法等、内容についてのさらなる協議が必要である。

【３－４　適正な事業経営の推進】

(21)ストックマネジメント体制の整備（計画書 P65）

施策内容	①　ストックマネジメント体制の整備	担当課	廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
ごみ処理の広域化を含めた次期ごみ処理施設の整備手法の検討	【再掲(16)-①】 ●吉岡地区の次期ごみ処理施設等用地でのごみ処理施設整備は断念したが、ごみ処理の広域化が優位であることは変わりないことから、広域化を前提に検討を進め、周辺自治体と情報交換を行った。 （令和６年度） ごみ処理の広域化を含めた次期ごみ処理施設の整備手法については、概算事業費やそれに伴う財政負担、実現可能性等を総合評価した結果、八街市とのごみ処理の広域化とすることとした。

個別評価	□	評価点	1	総合評価	□

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
□	□	□	△	□

平均点	1.2	総合評価	D

評　価	広域化を前提として、次期ごみ処理施設整備の検討を行った。
課題等	現クリーンセンターが施設稼働から 30 年以上経過していることから、早急な整備が必要である。

第３章　施策の実施状況について（生活排水処理基本計画）

基本方針１　生活排水処理の推進

【１－１　公共下水道の普及】

(1)経済的助成制度（計画書 P87）

施策内容	①	公共下水道供用開始区域での早期接続を誘導するため、「四街道市水洗便所改造資金助成条例」の周知を働きかける	担当課	下水道課

具体的な取組み	実施状況
水洗便所改造資金の助成の実施	●０件（対象者なし） （令和６年度：０件（対象者なし）） ※当該補助金は市が行う下水道の新規整備に伴い生じるもので、対象者がいた場合のみ個別に通知を実施

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
□	◎	◎	◎	◎

平均点	3.4	総合評価	B
評　価	計画期間を通して水栓便所改造資金に係る助成について適切に対応することができた。		
課題等	今後も対象者に対して適切に情報提供等を行っていく。		

(2)水環境の保全意識の向上（計画書 P87）

施策内容	①	公共下水道の普及が、水環境の改善及び保全に役立つことを、啓発活動をとおして呼びかける	担当課	下水道課

具体的な取組み	実施状況
下水道の適正な利用と公共下水道未接続の世帯に対する接続の啓発活動の実施	●市 HP 及び市政だよりに啓発記事を掲載 ●市産業まつりで啓発活動を実施

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A
評　価	継続して啓発活動を実施することができた。		
課題等	今後も公共下水道の重要性について、市民に対して発信していく。		

【１－２　高度処理型合併処理浄化槽の普及】

(3)経済的助成制度の周知（計画書 P87）

施策内容	①	公共下水道供用開始区域外での高度処理型合併処理浄化槽への転換設置を誘導するため、「四街道市高度処理型合併処理浄化槽補助金交付要綱」に基づき、転換設置者に対して経済的助成制度の活用を働きかける	担当課	環境政策課

具体的な取組み	実施状況
対象世帯に対して補助金を交付	●交付件数：２件 （令和６年度：２件）

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	◎	◎	◎	◎

平均点	3.8	総合評価	A

評　価	対象世帯に対して適切に補助金を交付した。
課題等	今後も経済的助成制度についての周知及び適切な交付を行っていく。

(4)水環境の保全意識の向上（計画書 P87）

施策内容	①	高度処理型合併処理浄化槽の普及が、水環境の改善及び保全に役立つことを、啓発活動をとおして呼びかける	担当課	環境政策課

具体的な取組み	実施状況	個別評価
1)　啓発活動の実施	●市 HP や市政だよりに啓発記事を掲載 ●啓発リーフレットの配布及びポスターの掲示	◎
2)　宅地開発業者に高度処理型合併処理浄化槽の設置を指導	●開発行為事前協議の際、宅地開発業者に対して高度処理型合併処理浄化槽の設置を住民などに呼びかけるように協力を要請 要請件数：７件（令和６年度：13 件）	◎

評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	高度処理型合併処理浄化槽設置についての啓発及び設置の要請を適切に行うことができた。
課題等	今後も高度処理型合併処理浄化槽の設置の促進について取り組んでいく。

基本方針２　市民・事業者・行政の協働

【２－１　市民の取組み】

(5)循環型社会のライフスタイルへの転換（計画書 P88）

施策内容	①　大量消費、大量廃棄の生活スタイルから資源を大切にし、資源の循環に配慮した消費活動やライフスタイルへ転換し、水環境の保全に努める	担当課	環境政策課

具体的な取組み	実施状況
家庭における浄化槽の適切な維持管理の周知	●市 HP 及び市政だよりに啓発記事を掲載

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	◎	◎	◎	◎

平均点	3.8	総合評価	A

評　価	浄化槽の維持管理について、周知及び啓発を行うことができた。
課題等	今後も浄化槽の適切な管理について周知・啓発を行っていく。

施策内容	②　家庭でできる身近な生活排水対策を実践し、環境負荷の軽減に努める	担当課	環境政策課

具体的な取組み	実施状況
簡単に実践可能な生活排水対策を市 HP で紹介	●市 HP に生活排水対策が記載された四街道市環境白書を掲載

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	四街道市環境白書を通じて、生活排水対策を周知することができた。
課題等	引き続き市民に分かりやすいかたちで、生活排水対策について周知を行っていく。

施策内容	③　水環境の保全を目的とした地域の環境美化活動への協力	担当課	環境政策課

具体的な取組み	実施状況
市内各地で行われる河川清掃等の環境美化活動への協力	●四街道自然同好会による山梨ほたるの里（ホタル自生地）の清掃活動を年２回実施 市民参加人数：24 人（令和６年度：33 人） ●上手繰川清掃活動への協力　実施日：令和７年 11 月 13 日 市民参加人数：８人（令和６年度：19 人）

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	毎年環境美化活動を実施することで、環境保全に取り組むことができた。
課題等	今後も環境美化活動を継続していくことで、市の環境を保全していく。

(6)生活排水対策の実施（計画書 P88）

施策内容	①　公共下水道供用開始区域については下水道への早期接続、区域外については高度処理型合併処理浄化槽の設置等、適正な生活排水対策に努める	担当課	環境政策課 下水道課

具体的な取組み	実施状況	個別評価
1)　合併処理浄化槽の設置や浄化槽の適切な維持管理について、チラシ等を活用した広報活動の実施	●チラシ等の配布、市 HP 及び市政だよりに啓発記事を掲載	◎
2)　市政だよりや市産業まつりで啓発活動を実施	●市 HP や市政だよりに啓発記事を掲載 ●市産業まつりで啓発活動を実施	◎

評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	計画期間をとおして生活排水対策について啓発を行うことができた。
課題等	今後も効果的な啓発を行い、生活排水対策に努める必要がある。

【２－２　事業者の取組み】

(7)自己処理の原則に基づく適正処理（計画書 P88）

施策内容	①　自己処理の原則に基づく、適正な排水処理及び環境負荷の低減	担当課	環境政策課

具体的な取組み	実施状況
公共下水道供用開始区域外に事業所の建設を予定している事業者に対し、高度処理型合併処理浄化槽を設置するよう要請	●開発行為事前協議の際に開発業者に対して高度処理型合併処理浄化槽を設置するよう要請 要請件数：２件（令和６年度：１件）

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	◎	◎	◎	◎

平均点	3.8	総合評価	A

評　価	開発業者に対して効果的に要請を行うことができた。
課題等	今後も開発業者に対して、高度処理型合併処理浄化槽の設置を促進していく。

(8)環境保全・資源保全意識の向上（計画書 P88）

施策内容	①　事業者として環境保全意識及び資源保全意識の向上	担当課	環境政策課

具体的な取組み	実施状況
公共下水道供用開始区域外で使用済自動車の解体業を行う予定の事業者に対し、汚濁物質削減の協力を要請	●使用済自動車の解体業の許可申請の際に事業者に対して施設内設備の適正な維持管理を行い、水質汚濁の原因となる物質を抑制するよう千葉県を通じて要請 要請件数：14 件（令和６年度：８件） ●特定再生資源屋外保管業の許可申請の際に、事業者に対して施設内設備の適正な維持管理を行い、水質汚濁の原因となる物質を抑制するよう千葉県を通じて要請 要請件数：０件 ※該当なし（令和６年度：28 件）

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	◎	◎	◎	◎

平均点	3.8	総合評価	A

評　価	事業者に対して、千葉県を通じて適切に要請を行うことができた
課題等	水質汚濁を防止するため、今後も適切な指導を要請していく。

施策内容	②　水環境の保全を目的とした地域の環境美化活動への協力	担当課	環境政策課

具体的な取組み	実施状況
市内各地域で、事業者による河川清掃等の環境美化活動を実施	●市内事業者による環境美化活動の実施 事業者数：３者（令和６年度：３者）

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	市内事業者による環境美化活動を実施することで、市内の環境保全に取り組むことができた。
課題等	今後も事業者に対して環境美化活動の継続を依頼していく。

【２－３　行政の取組み】

(9)本計画での基本理念及び基本方針の周知（計画書 P88）

施策内容	①　生活排水処理の基本理念及び基本方針を市民、事業者に周知と行政の積極的行動	担当課	環境政策課 廃棄物対策課

具体的な取組み	実施状況
基本理念及び基本方針を市政だよりや市 HP において周知	●市 HP に四街道市一般廃棄物処理基本計画を公表 ●市 HP に四街道市一般廃棄物処理基本計画　令和６年度年次報告書を公表

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	△	○	◎	◎

平均点	3.2	総合評価	B

評　価	市 HP に各計画を掲載することで市の方針を周知することができた。
課題等	今後も市民に分かりやすいかたちで周知を行っていく。

施策内容	②　環境保全、生活排水処理に関する情報の提供	担当課	環境政策課

具体的な取組み	実施状況
市 HP において市の環境（生活排水を含む）に関する情報を提供	【再掲(5)-②】 ●市 HP に生活排水対策が記載された市の環境白書を掲載

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎
平均点	4	総合評価	A	
評　価	四街道市環境白書を通じて、生活排水対策について周知することができた。			
課題等	引き続き市民に分かりやすいかたちで、生活排水対策について周知を行っていく必要がある。			

(10)計画達成のための施策等の決定（計画書 P88）

施策内容	①　各種施策の実施計画の策定及び予算の確保	担当課	環境政策課 廃棄物対策課
具体的な取組み	実施状況		個別評価
1)　生活排水処理実施計画の策定	●市 HP に生活排水処理実施計画を公表		◎
2)　四街道市高度処理型合併処理浄化槽補助金の予算確保の実施	【再掲(3)-①】 ●交付件数：２件（令和６年度：２件）		◎
評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）				
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	◎	◎	◎	◎
平均点	3.8	総合評価	A	
評　価	生活排水の処理について、計画の策定や予算措置を行った。			
課題等	今後も継続して予算措置等を行い、生活排水処理向上に努めていく。			

基本方針３　適正維持管理の推進

【３－１　適正な収集・運搬体制の維持】

(11)状況変化に対応した適正な収集・運搬体制の維持（計画書 P89）

施策内容	①　し尿及び浄化槽汚泥の収集量の変化に対応した、適正な収集・運搬体制を維持	担当課	環境政策課

具体的な取組み	実施状況
市内で発生するし尿及び浄化槽汚泥量と収集・運搬業者の処理能力を比較検討し、適正な体制を維持	●令和７年度末の浄化槽清掃業等の許可更新時に汚泥発生量と収集量を比較検討し、現状の体制が適正であると判断 ※許可の更新は２年に１回

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	し尿及び汚泥発生量と収集量を適切に把握することで、適正な収集・運搬体制を維持することができた。
課題等	今後も適切な収集・運搬体制を維持することに努めていく必要がある。

(12)環境と安全に配慮した収集・運搬の実施（計画書 P89）

施策内容	①　環境と安全に配慮した収集・運搬効率の向上	担当課	環境政策課

具体的な取組み	実施状況
許可業者の作業計画を分析し、収集・運搬効率を最適化	●令和７年度末の浄化槽清掃事業等の許可更新時に事業者の作業計画について問題なしと判断 ※許可の更新は２年に１回 ●収集車の更新時に環境に配慮した低公害車両の導入を検討するよう依頼

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	○	◎	◎	◎

平均点	3.6	総合評価	A

評　価	作業計画の分析や低公害車の導入要請等、環境と安全に配慮した収集・運搬体制の維持に努めた。
課題等	今後も環境、安全に配慮した収集・運搬体制の維持に努めていく必要がある。

【３－２　中間処理施設の適正管理】

(13)浄化槽の適正な維持管理の推進（計画書 P89）

施策内容	① 法的に義務付けられている設置者の責務等について周知及び浄化槽の適正な維持管理の推進	担当課	環境政策課

具体的な取組み	実施状況
市 HP 等において、法令に定められている浄化槽の検査や清掃について広報を実施	●市 HP 及び市政だよりに啓発記事を掲載

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	浄化槽の適正維持について、適切な啓発を行った。
課題等	今後も市民に分かりやすいかたちで啓発を行っていく。

(14)し尿・浄化槽汚泥の中間処理施設の適正な維持管理の推進（計画書 P89）

施策内容	①　汚泥再生処理センターの適正な維持管理及び機能の保全	担当課	環境政策課 産業振興課 印旛衛生施設管理組合

具体的な取組み	実施状況
汚泥を活用した肥料を市民農園等に配布し、再生汚泥の循環を実施	●印旛衛生施設管理組合で汚泥を活用した再生肥料を配布 四街道市民に配布した再生肥料の量：62.45ｔ（令和 6 年度：59.74ｔ） うち市民農園で配布した再生肥料の量：1.87ｔ（令和 6 年度：1.87ｔ）

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	再生汚泥の循環利用として再生肥料を市民に配布することができた。
課題等	今後も汚泥の循環利用のため、積極的な再生肥料の利用を促進する必要がある。

施策内容	② 受入品質の変化に対応した適正処理 （し尿の減少、浄化槽汚泥の増量に適正に対応）	担当課	環境政策課 印旛衛生施設管理組合

具体的な取組み	実施状況
(14)-①の施策により、肥料の供給先を確保	●印旛衛生施設管理組合で汚泥を活用した再生肥料を配布 構成市町村等に配布した再生肥料の量：458.80ｔ （令和６年度：465.80ｔ）

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	再生肥料の供給先として構成市町村等に配布することができた。
課題等	再生汚泥の循環利用を促進するため、構成市町村等への配布を継続して行っていく。

(15)公共広域下水道施設の適正な維持管理（計画書 P89）

施策内容	①　公共広域下水道処理施設の適正な維持管理	担当課	下水道課 公益財団法人千葉県下水道公社 （印旛沼流域下水道花見川終末処理場）

具体的な取組み	実施状況
下水道の適正な維持管理についての周知	●施設見学、出張下水道教室、パンフレットの配布等の普及啓発事業を通して下水道の適正な維持管理を周知

個別評価	◎	評価点	4	総合評価	◎

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	下水道に関するイベント等を通じて効果的に下水道の維持管理について周知を行うことができた。
課題等	今後も様々な方法で、市民に対して周知を行っていく。

第４章　指標の進捗状況について

指標の進捗状況の評価

◆実績と数値目標（ごみ処理基本計画）

項目	当初計画最終年度の実績数値	前計画中間目標年度の数値目標	評価年度の数値目標（計画最終年度）	評価年度の実績数値（計画最終年度）
	H27 年度	Ｒ２年度	Ｒ７年度	Ｒ７年度
１人１日当たり総排出量（生活系ごみ+事業系ごみ）	832ｇ	793ｇ	755ｇ	711ｇ
１人１日当たり家庭系ごみ排出量	554ｇ	497ｇ	495ｇ	473ｇ
リサイクル率	23.4%	26.4%	23.9%	20.8%
最終処分率	9.9%	9.3%	9.2%	8.4%

※１．１人１日当たり総排出量、１人１日当たり家庭系ごみ排出量、最終処分率は数値目標を下げること、リサイクル率は数値目標を上回ることを目指すものとする。

※２．家庭系ごみ＝生活系ごみの中から資源物（資源物、有害ごみ）を除いたもの

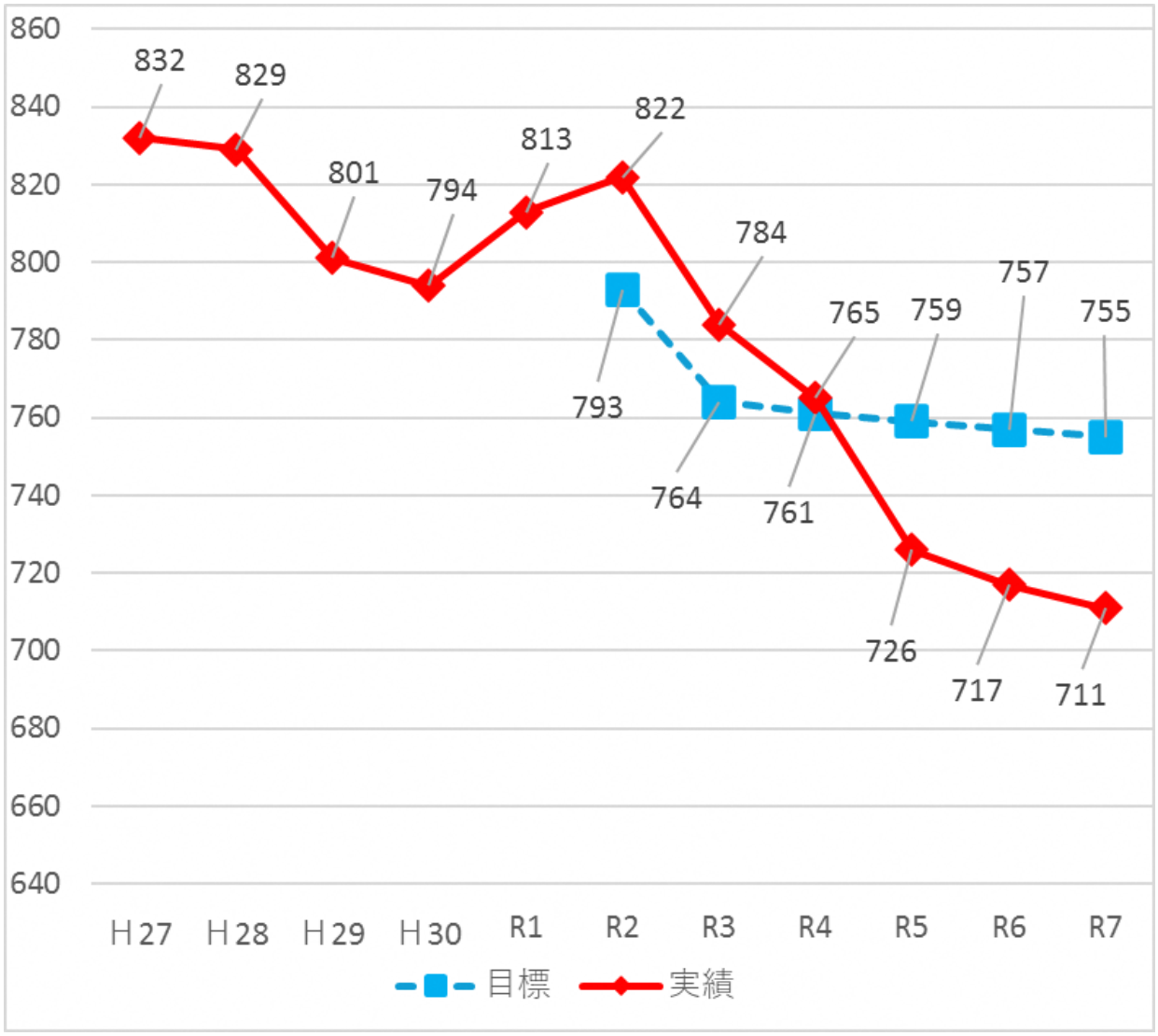
◆実績と数値目標（生活排水処理基本計画）

項目	当初計画最終年度の実績目標	前計画中間目標年度の数値目標	評価年度の数値目標（計画最終年度）	評価年度の実績数値（計画最終年度）
	H27 年度	Ｒ２年度	Ｒ７年度	Ｒ７年度
公共下水道接続人口	77,182 人	79,351 人	79,699 人	84,596 人
合併処理浄化槽人口	8,812 人	10,590 人	11,452 人	12,356 人
単独処理浄化槽人口	1,928 人	1,846 人	1,763 人	992 人
し尿汲み取り人口	3,519 人	3,362 人	3,204 人	2,449 人

※公共下水道接続人口、合併処理浄化槽人口は数値を上回ること、単独処理浄化槽人口、し尿汲み取り人口は数値を下回ることを目指すものとする。

評価指標	１人１日当たり総排出量（生活系ごみ+事業系ごみ）（単位：ｇ）										
年度	H27	H28	H29	H30	R１	R２	R３	R４	R５	R６	R７
目標	－	－	－	－	－	793	764	761	759	757	755
実績	832	829	801	794	813	822	784	765	726	717	711

グラフ



評価	◎	評価点	4

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

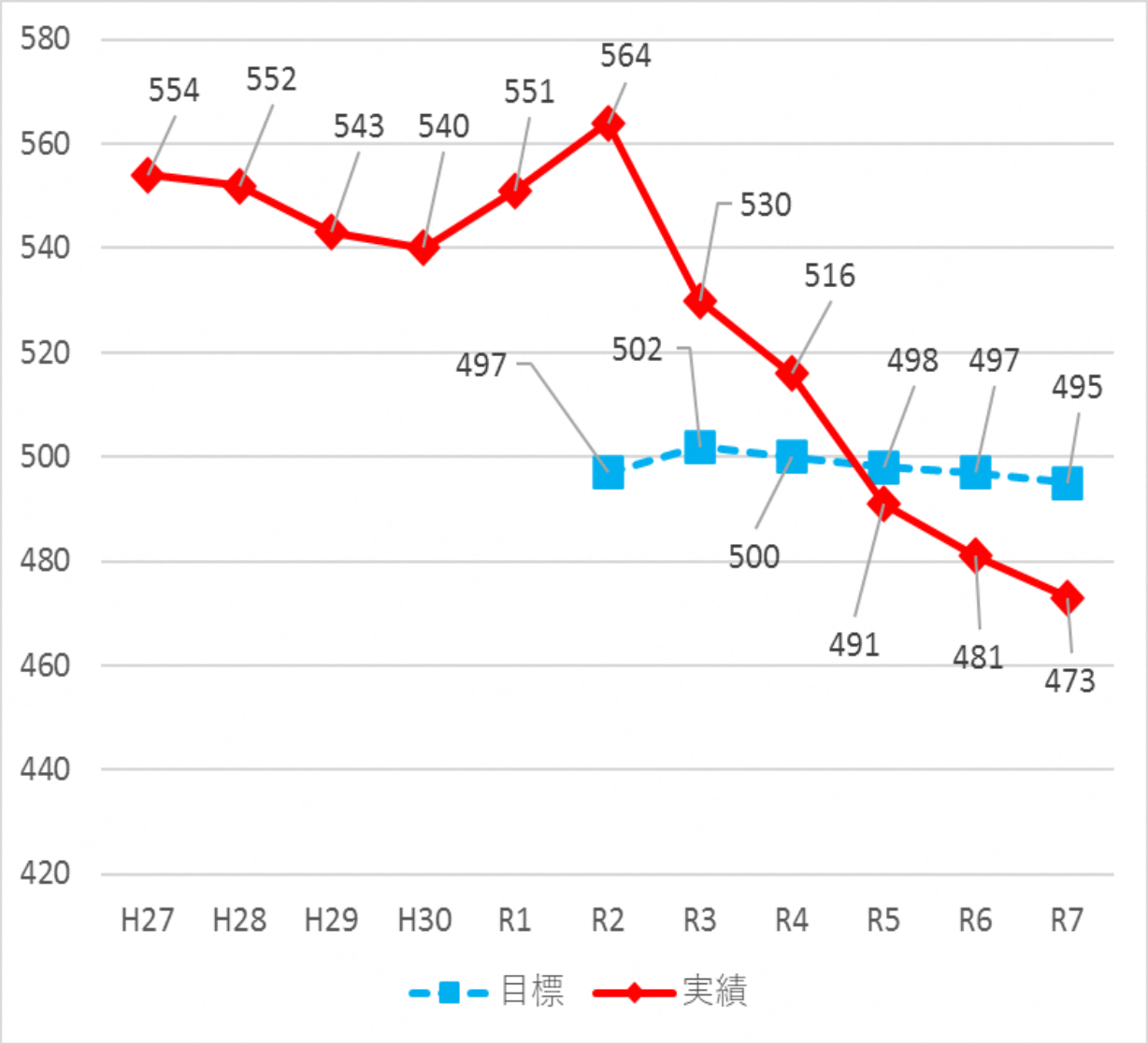
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	○	◎	◎	◎

平均点	3.6	総合評価	A

評　価	令和２年度をピークに毎年減少を続けており、目標値を達成することができた。達成した要因として、市民のごみ減量意識の向上やごみ処理手数料制度の導入効果等が考えられる。
課題等	今後もごみ排出量を継続して減らしていくために、市民、事業者に対してごみ減量に関する意識を向上させるための情報発信等を行っていく。

評価指標	１人１日当たり家庭系ごみ排出量（単位：ｇ）										
年度	H27	H28	H29	H30	R１	R２	R３	R４	R５	R６	R７
目標	－	－	－	－	－	497	502	500	498	497	495
実績	554	552	543	540	551	564	530	516	491	481	473

グラフ



評価	◎	評価点	4

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

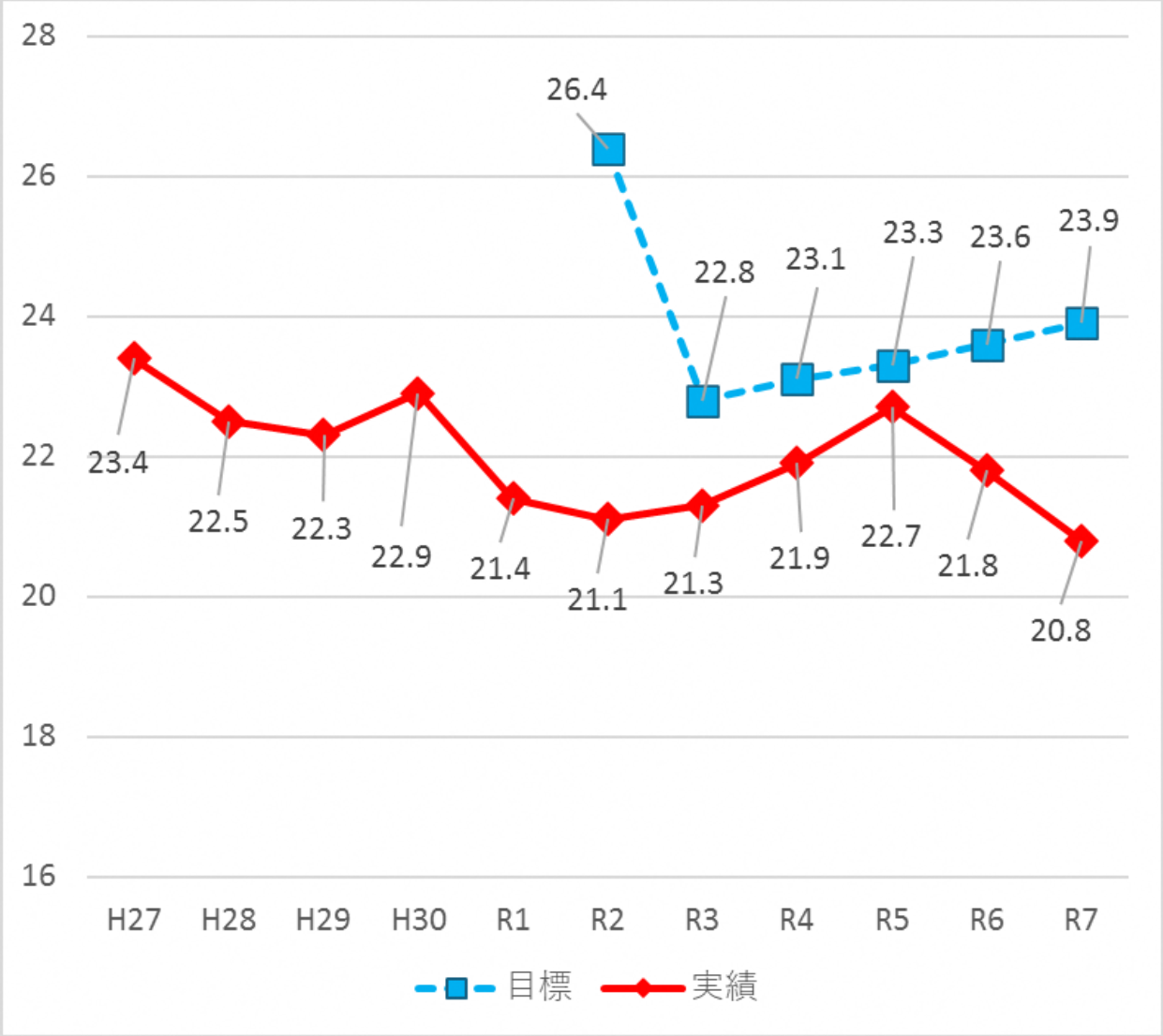
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
○	○	◎	◎	◎

平均点	3.6	総合評価	A

評　価	令和２年度をピークに毎年減少を続けており、目標値を達成することができた。達成の要因として、市民のごみ減量意識の向上や、ごみ処理手数料制度の導入効果等が考えられる。
課題等	今後も継続してごみ排出量を減量していくために、家庭系ごみ削減に関する情報等の発信を行っていく。

評価指標	リサイクル率（単位：%）										
年度	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
目標値	－	－	－	－	－	26. 4	22. 8	23. 1	23. 3	23. 6	23. 9
実績値	23. 4	22. 5	22. 3	22. 9	21. 4	21. 1	21. 3	21. 7	22. 7	21. 8	20. 8

グラフ



評価	□	評価点	1

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

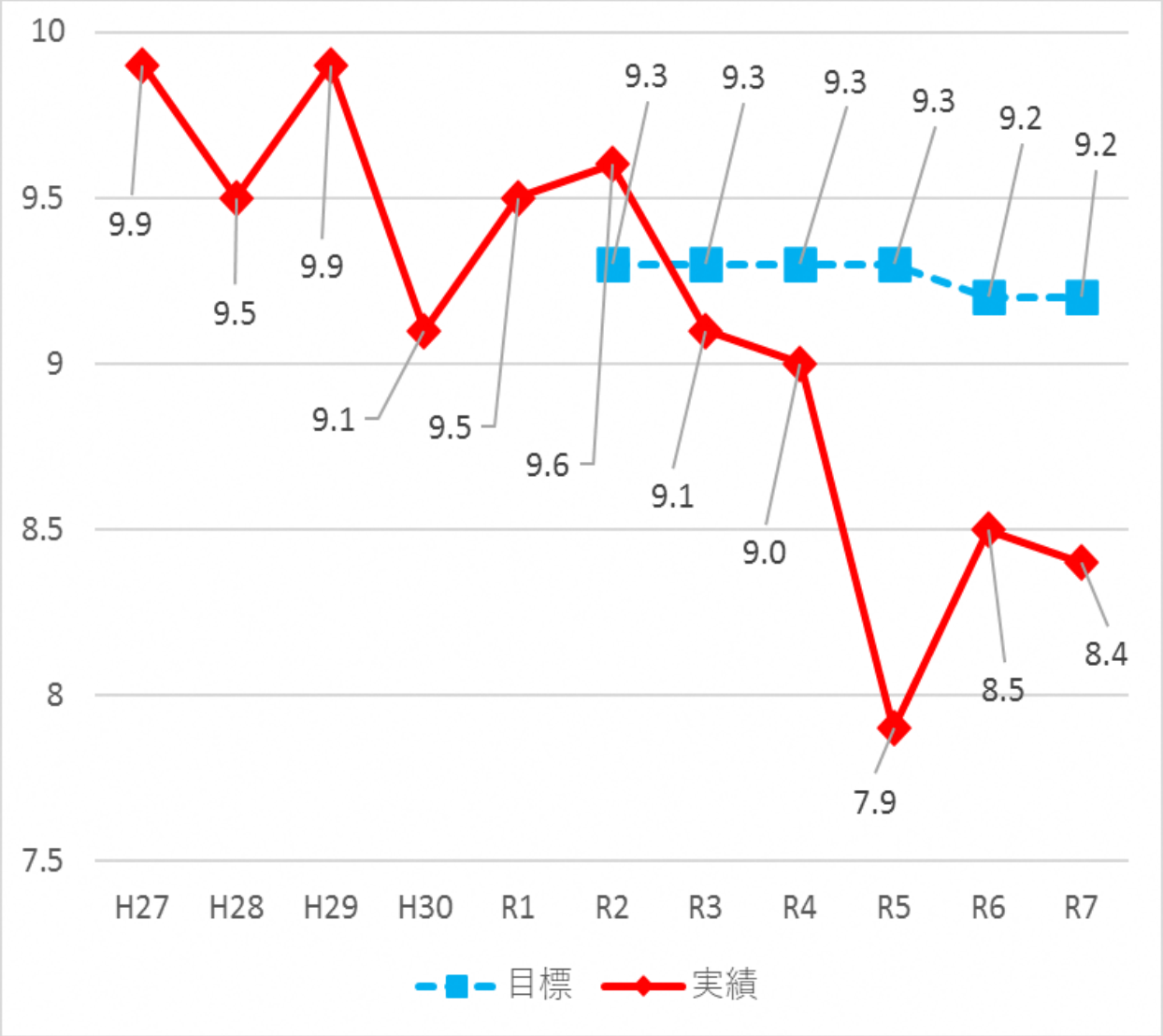
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
△	△	○	□	□

平均点	1. 8	総合評価	C

評　価	計画期間全体をとおして、リサイクル率は 20%前半の数値で推移しており、目標値を達成できなかった。
課題等	リサイクル率を上昇させるためには資源化量を増やす必要がある。そのため、さらなる分別の徹底や拠点回収の充実による市民の利便性向上等、新たなリサイクルの方策を検討する必要がある。

評価指標	最終処分率（単位：%）										
年度	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
目標値	－	－	－	－	－	9. 3	9. 3	9. 3	9. 3	9. 2	9. 2
実績値	9. 9	9. 5	9. 9	9. 1	9. 5	9. 6	9. 1	9. 0	7. 9	8. 5	8. 4

グラフ



評価	◎	評価点	4

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

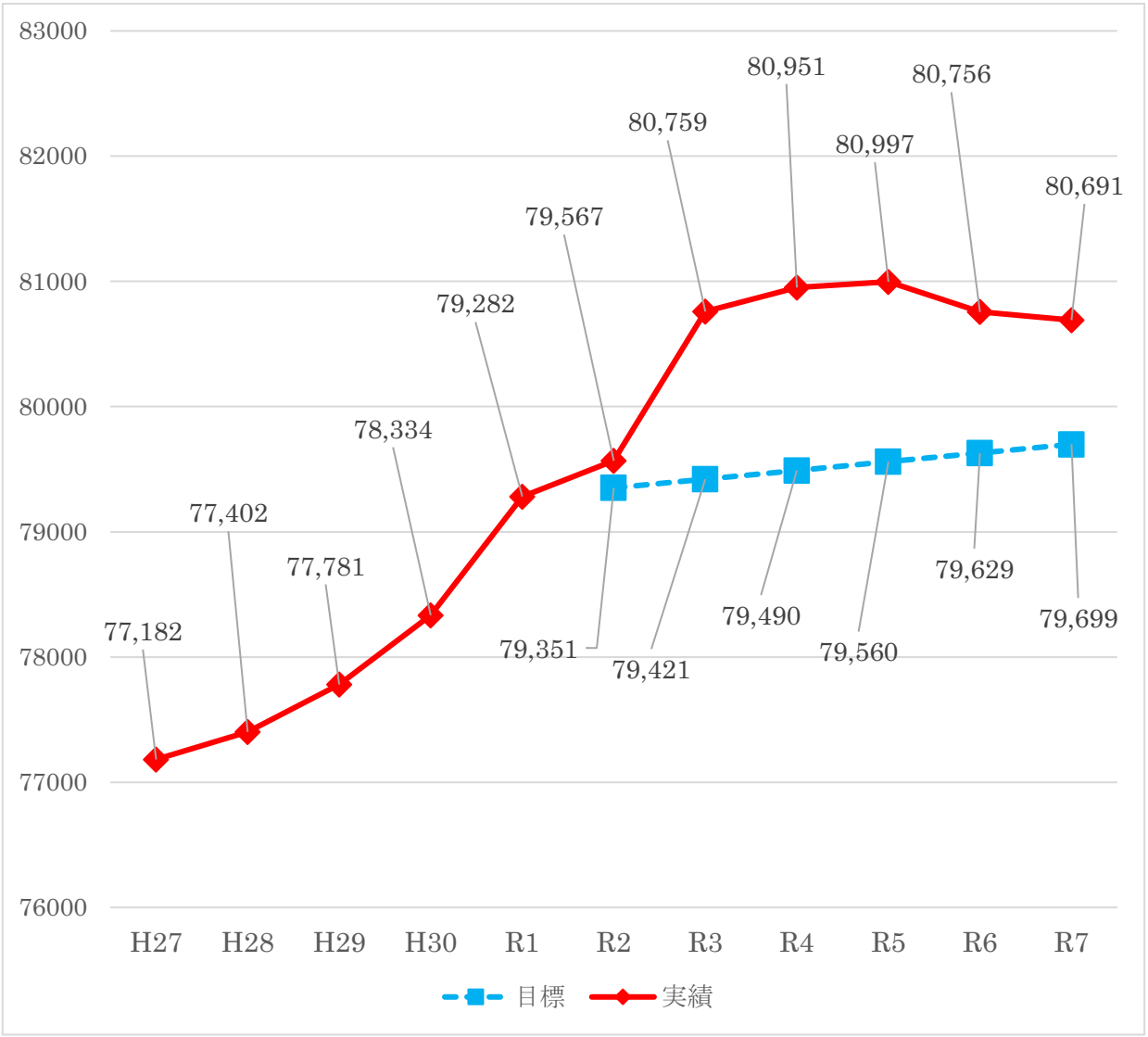
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	最終処分率は順調に減少していっており、目標値を達成することができた。達成の要因として、ごみ排出量が減少していることや、焼却灰の溶融処理による資源化を行っていることなどが挙げられる。
課題等	当市は最終処分場が無く、他県に搬出しているため最終処分量を減らしていく必要がある。焼却灰の溶融処理は費用面に課題があるため、さらなるごみ排出量の削減やリサイクルの促進等を行っていく必要がある。

評価指標	公共下水道接続人口（単位：人）										
年度	H27	H28	H29	H30	R１	R２	R３	R４	R５	R６	R７
目標値	－	－	－	－	－	79, 351	79, 421	79, 490	79, 560	79, 629	79, 699
実績値	77, 182	77, 402	77, 781	78, 334	79, 282	79, 567	80, 759	80, 951	80, 997	80, 756	80, 691

グラフ



評価	◎	評価点	4

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

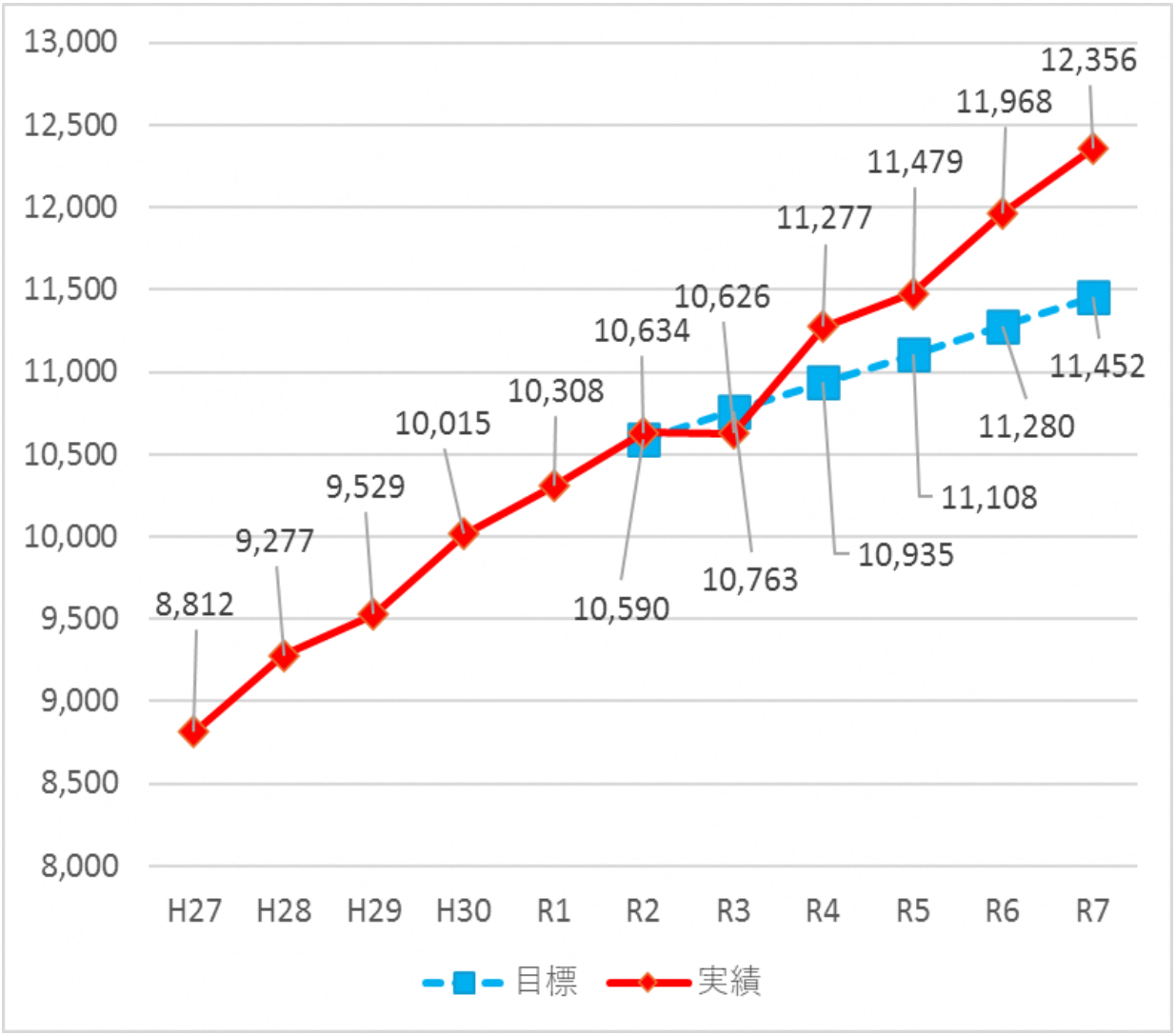
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	公共下水道人口は毎年増加しており、目標値を達成することができた。達成した要因として、公共下水道接続処理区域内人口の増加によるものと考えられる。 なお、令和５年度から数値が微減している要因として、市街化調整区域の人口増加と市内の世帯数の増加に対して人口が減少していることが考えられる。
課題等	今後も公共下水道を普及させるため、主に公共下水道未接続世帯について啓発活動等を行っていく。

評価指標	合併処理浄化槽人口（単位：人）										
年度	H27	H28	H29	H30	R１	R２	R３	R４	R５	R６	R７
目標値	－	－	－	－	－	10, 590	10, 763	10, 935	11, 108	11, 280	11, 452
実績値	8, 812	9, 277	9, 529	10, 015	10, 308	10, 634	10, 626	11, 277	11, 479	11, 968	12, 356

グラフ



評価	◎	評価点	4

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

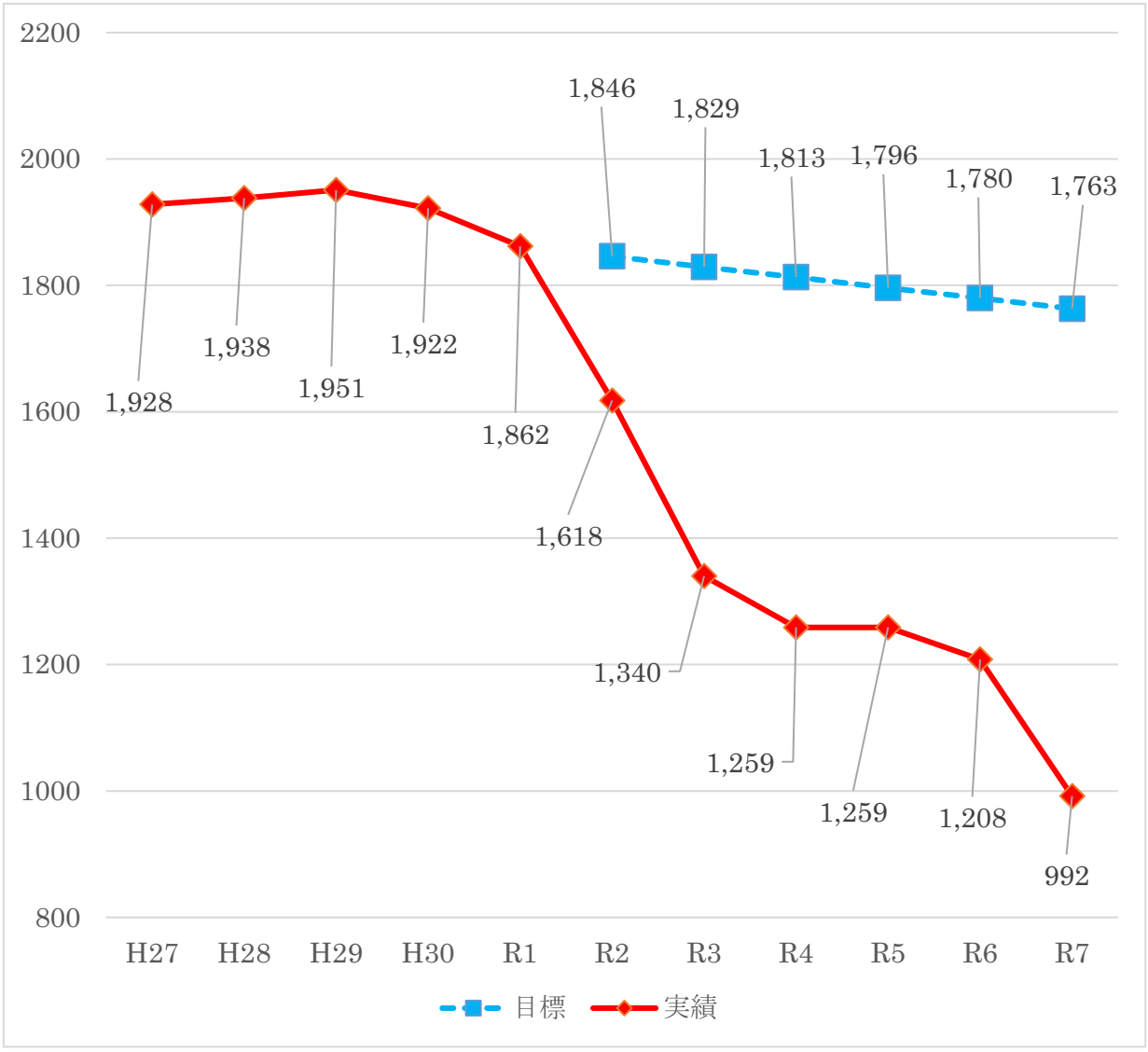
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	市内の合併処理浄化槽人口は毎年増加しており、目標値を達成することができた。達成した主な要因として、公共下水道供用開始区域外の人口増加に伴い、合併処理浄化槽設置者が増加したことが考えられる。
課題等	今後も合併処理浄化槽の設置を促進するため、情報発信や費用の補助等を行っていく。

評価指標	単独処理浄化槽人口（単位：人）										
年度	H27	H28	H29	H30	R１	R２	R３	R４	R５	R６	R７
目標値	－	－	－	－	－	1, 846	1, 829	1, 813	1, 796	1, 780	1, 763
実績値	1, 928	1, 938	1, 951	1, 922	1, 862	1, 618	1, 340	1, 259	1, 259	1, 208	992

グラフ



評価	◎	評価点	4

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

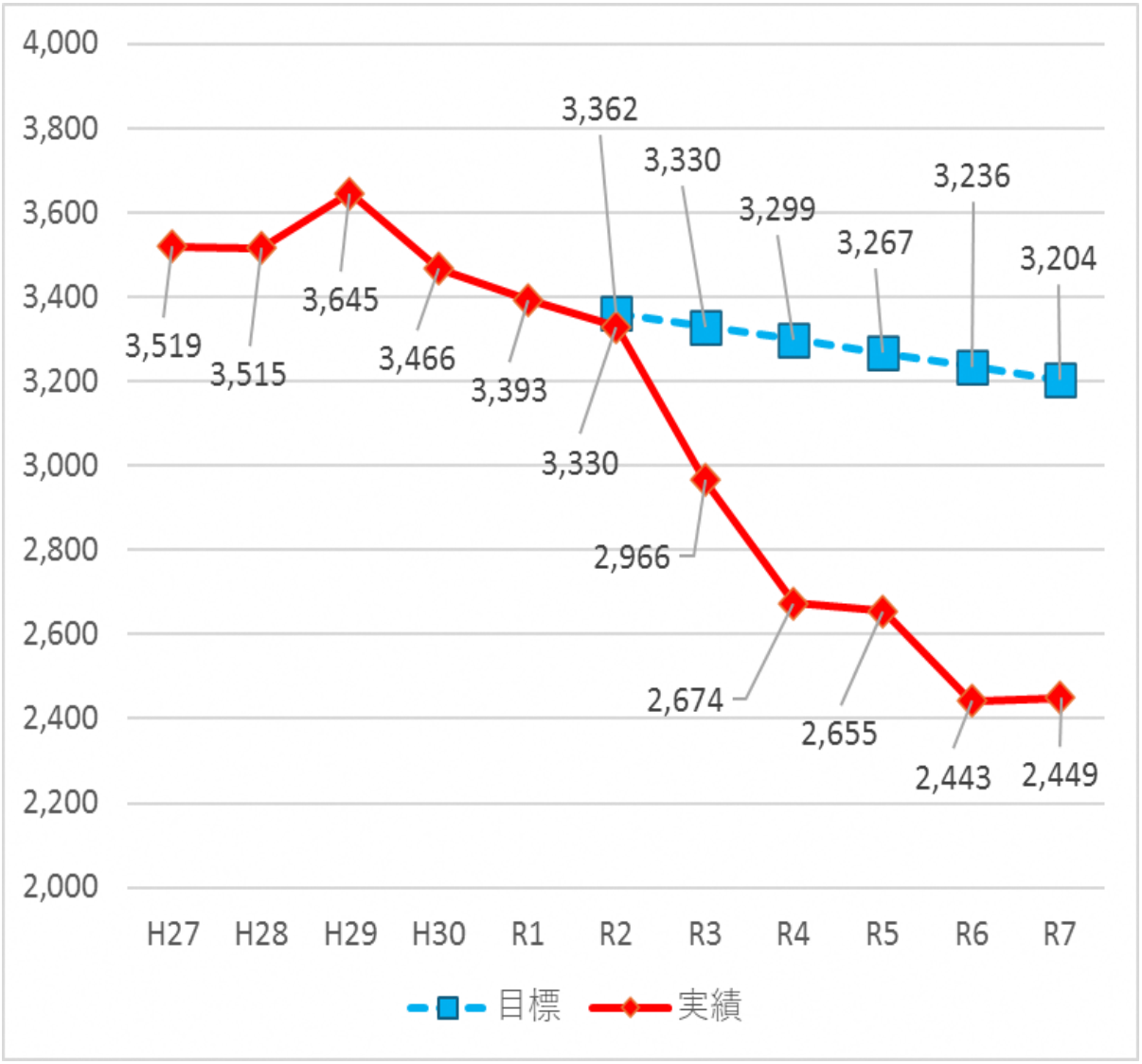
各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A

評　価	単独処理浄化槽人口は毎年減少を続けており、目標値を達成することができた。達成した要因は、合併処理浄化槽への転換が進んでいることが起因している。
課題等	今後も合併処理浄化槽への転換を進めていくため、情報発信や費用の補助などを行っていく。

評価指標	し尿汲み取り人口（単位：人）										
年度	H27	H28	H29	H30	R１	R２	R３	R４	R５	R６	R７
目標値	－	－	－	－	－	3, 362	3, 330	3, 299	3, 267	3, 236	3, 204
実績値	3, 519	3, 515	3, 645	3, 466	3, 393	3, 330	2, 966	2, 674	2, 655	2, 443	2, 449

グラフ



評価	◎	評価点	4

≪総合評価≫（令和３年度～令和７年度）

各年度の評価				
令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
◎	◎	◎	◎	◎

平均点	4	総合評価	A
評　価	し尿汲み取り人口は年々減少しており、目標値を達成することができた。達成した要因は合併処理浄化槽への転換が進んでいることが起因している。		
課題等	今後も合併処理浄化槽への転換を進めていくため、情報発信や費用の補助などを行っていく。		

第５章　まとめ

【令和７年度】

令和７年度における各種施策の取組状況については、市民意識やニーズの変化、廃棄物の質的多様化など、社会情勢の変化等に応じて新たな施策の導入や既存施策の見直し等を行いながら実施した。

令和７年度における各種施策の総合評価は、全 60 項目のうち、「◎」が 48 項目、「○」が５項目となっており、全体の８割以上で取組みが実施できているという結果になった。

一方で「□」が計７項目となっており、そのほとんどがごみ処理基本計画の基本方針３「適正処理の構築」で掲げられている施策であった。その中でも「次期ごみ処理施設整備の検討」については、計画期間中に方針を決定することができず、次期計画期間へ持ち越しとなった。

数値目標の達成状況については、全８項目の内訳は「◎」が７項目、「□」が１項目と概ね目標達成を達成することができたが、唯一達成できなかったリサイクル率については、昨年度よりも約１%減少するなど課題を残し、達成は次期計画期間に持ち越しとなった。

◆各種施策の評価一覧（令和７年度）

基本方針		項目数	総合評価			
			◎	○	△	□
ごみ処理基本計画	１．２Ｒを意識した３Ｒの推進	15	11	4	0	0
	２．市民・事業者・行政の協働	13	12	1	0	0
	３．適正処理の構築	12	5	0	0	7
生活排水処理基本計画	１．生活排水処理の推進	4	4	0	0	0
	２．市民・事業者・行政の協働	10	10	0	0	0
	３．適正維持管理の推進	6	6	0	0	0
合　計		60	48	5	0	7

◆数値目標の評価一覧（令和７年度）

項　目	評　価
１人１日あたり総排出量	◎
１人１日あたり家庭系ごみ排出量	◎
リサイクル率	□
最終処分率	◎
公共下水道接続人口	◎
合併処理浄化槽人口	◎
単独処理浄化槽人口	◎
し尿汲み取り人口	◎

【計画期間（令和３年度～令和７年度）の総合評価】

中間見直し以降の各種施策の総合評価は、全 60 項目のうち、「A」が 38 項目、「B」が 15 項目「C」が１項目「D」が６項目となっており、「A」と「B」を合わせると全体の８割以上で施策について取り組むことができた。

C、D評価となったのは全てごみ処理基本計画の基本方針３「適正処理の構築」に掲げられている次期ごみ処理施設整備についての項目であった。この施策については、市の重要施策であることから引き続き慎重に取り組んでいく必要がある。

数値目標については、全８項目のうち７項目でA評価となり達成することができた。達成できた項目については、計画最終年度を待たずして目標数値を達成することができた。

唯一C評価となったリサイクル率については、計画期間をとおして 20%～22%台で推移しており、目標数値に届かなかった。リサイクル率は次期計画期間も数値目標を掲げていることから、さらなる分別の徹底を図るとともに、リサイクルについての啓発、及びリサイクルに取り組みやすい環境整備をおこなっていく必要がある。

★各種施策の総合評価（令和３年度～令和７年度）

基本方針		項目数	総合評価			
			A	B	C	D
ごみ処理基本計画	１．２Ｒを意識した３Ｒの推進	15	9	6	0	0
	２．市民・事業者・行政の協働	13	9	4	0	0
	３．適正処理の構築	12	2	3	1	6
生活排水処理基本計画	１．生活排水処理の推進	4	3	1	0	0
	２．市民・事業者・行政の協働	10	9	1	0	0
	３．適正維持管理の推進	6	6	0	0	0
合計		60	38	15	1	6

★数値目標の総合評価（令和３年度～令和７年度）

項目	評価
１人１日あたり総排出量	A
１人１日あたり家庭系ごみ排出量	A
リサイクル率	C
最終処分率	A
公共下水道接続人口	A
合併処理浄化槽人口	A
単独処理浄化槽人口	A
し尿汲み取り人口	A

四街道市一般廃棄物処理基本計画
令和７年度　年次報告書

令和８年　　月

発行　四街道市環境部廃棄物対策課
千葉県四街道市鹿渡無番地
ＴＥＬ：０４３－４２１－６１３２
ＦＡＸ：０４３－４２４－２０１３